

## 昨年度の成果と課題

## 成果

- ・具体物を操作して感覚を養うため、身近なものを扱ったり取り組みたくなるような問題を出したりして、問題場면을理解しやすくした。
- ・問題文からキーワードに着目して問題を把握させ、ノート記述の充実を図ることで理解を深められた。
- ・学習カルテ（ステップ学習のチェックシート等）をもとに定着状況を把握し、学習の定着を図るよう補習の参加を促したりして学習の定着を図ることができた。

## 課題

- ・中・高学年では、電子黒板等 ICT を活用するなど視覚教材による児童の関心・意欲や理解を高める工夫をする必要がある。
- ・ノートに言葉や式、図や数直線などを使って自分の考えを表せるよう、さらに、考えを発表し合う中で友達のよさや自分の見直しをさせられるよう毎時の授業でまとめの時間をとる。
- ・基本的な知識・技能を身につけさせるため、授業や補習教室で繰り返し復習し、東京ベーシックドリル等を活用する。

## 平成28年度の調査結果の分析

## 結果の分析

- 「数と計算」については、4年生は目標値を大きく上回り、5年生では「分数」で約10ポイント、6年生は「偶数と奇数の類別」「倍数」の出題8ポイント目標値を下回っている。5年生は、小数、わり算の計算の理解は高いが、分数、概数への理解が低い。6年生は分数の計算は目標値を上回っているが、奇数・偶数の類別や、倍数についての理解が不十分である。
- 「数量関係」については、4年生は目標値を大きく上回っていて、棒グラフの読み取りがよくできている。5年生は折れ線グラフの読み取りと伴って変わる数量の関係、6年生は、与えられた表やデータから割合を求める帯グラフなどの理解が不十分である。
- 「数学的な考え方」は、5年生と6年生はほぼ目標値を上回っている。4年生は目標値を上回ってはいるが、「量と測定」の領域で、ある時刻から一定時間前の時刻を求める、2つの時刻の間の時間を求めるなど時刻の問題で下回っているところがある。
- 「技能」は、4～6年生共に目標値を概ね上回っているが、4年生の「長さ・重さ」のはかりの重さの読み取りの理解が十分ではない。重さの単位の違いはかりでの、1目盛りをどうとらえさせるかが課題である。

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

○基本的な知識・技能を身につけ、既習事項や友達との話し合いの中からヒントを得るなどして、自力解決する力を育てる。

低：単元の導入時に具体物を操作して感覚を養い、身近なものを使うことで、問題に取り組みやすく、理解しやすくする。

中：授業の初めに前時の復習や、東京ベーシックドリルを使った復習の時間をもつことで、基礎基本の定着を図る。自力解決に至らなくても、友達との話し合いの場をとることで、考え方のヒントになる場を設ける。

高：前学年までの既習事項や、友達との話し合いで問題を解決するための考えをもてるようにさせる。

問題を解決するためには、どのように考えたらいいかを、既習事項の復習から気付かせ、友達と話し合う中から学び、自力解決する力を育てる。

○問題を正しく読み取り、解決の方法を分かりやすく説明する力を育てる。

低：問題解決に必要な言葉や数量を具体物で示したり、絵や図に表してから立式させる。友達とお互いに考えを話し合い、様々な考え、説明の仕方を理解させる。

中：文章問題で、分かっていることと、求められていることを分けて整理させてから、話型を使い、分かりやすい説明ができるようにする。

高：問題文を図や表、式、言葉や数直線などを使って、自分の考えを表現できるようにさせる。分かっていることと、何を問われているかを明確にさせ、問題場面の理解をしやすくする。順序よく説明するために、初めに、次に、最後に、などの言葉を使って説明できるようにする。